

温泉分析書

(鉱泉分析法指針による分析成績)

1 温泉分析申請者

住所 大阪市西区江戸堀3丁目6-35
氏名 株式会社スーパーホテル 代表取締役 山村孝雄

2 源泉名及び湧出地

源泉名 なにわ温泉 (スーパーホテルCity大阪天然温泉)
湧出地 大阪市西区江戸堀3丁目111

3 湧出地における調査及び試験成績

(1) 調査及び試験者 株式会社 日本医学臨床検査研究所 エコテクノ事業部 平松照司
(2) 調査及び試験年月日 平成18年7月21日
(3) 泉温 33.7 °C (調査時における気温 24.0°C)
(4) 湧出量 180 L/min (動力揚湯)
(5) 知覚的試験 弱淡黄色・極微混濁・微硫化水素臭・無味
(6) pH値 7.6

4 試験室における試験成績

(1) 試験者 株式会社 日本医学臨床検査研究所 エコテクノ事業部 平松照司
(2) 分析終了年月日 平成18年8月4日
(3) 知覚的試験 弱茶褐色・透明・微硫化水素臭・無味
(4) 密度 0.9981 (20°C/4°C) mg/cm³
(5) pH値 7.81
(6) 蒸発残留物 446.8 mg/kg (180°C)
(7) ラドン(Rn)含有量 1.3 ×10⁻¹⁰ Ci/Kg (4.6 Bq/Kg)

5 試料1kg中に含有する成分、分量及び組成

(1) 陽イオン

成分名	ミリグラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)
水素イオン(H ⁺)	0.0	0.00	0.00
リチウムイオン(Li ⁺)	0.0	0.00	0.00
ナトリウムイオン(Na ⁺)	137.6	5.99	82.61
カリウムイオン(K ⁺)	4.2	0.11	1.52
アンモニウムイオン(NH ⁴⁺)	4.6	0.26	3.59
マグネシウムイオン(Mg ²⁺)	4.4	0.36	4.97
カルシウムイオン(Ca ²⁺)	10.1	0.50	6.90
ストロンチウムイオン(Sr ²⁺)	0.1	0.00	0.00
バリウムイオン(Ba ²⁺)	0.1	0.00	0.00
アルミニウムイオン(Al ³⁺)	0.0	0.00	0.00
マンガンイオン(Mn ²⁺)	0.1	0.00	0.00
鉄(II)イオン(Fe ²⁺)	0.9	0.03	0.41
陽イオン 計	162.1	7.25	100

(2) 陰イオン

成分名	ミリグラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)
フッ素イオン(F ⁻)	0.0	0.00	0.00
塩素イオン(Cl ⁻)	17.0	0.48	6.84
臭素イオン(Br ⁻)	0.0	0.00	0.00
ヨウ素イオン(I ⁻)	0.0	0.00	0.00
水酸イオン(OH ⁻)	0.0	0.00	0.00
硫化水素イオン(HS ⁻)	0.0	0.00	0.00
チオ硫酸イオン(S ₂ O ₃ ²⁻)	0.6	0.01	0.14
硫酸イオン(SO ₄ ²⁻)	0.0	0.00	0.00
亜硝酸イオン(NO ₂ ⁻)	0.0	0.00	0.00
硝酸イオン(NO ₃ ⁻)	0.0	0.00	0.00
リン酸一水素イオン(HPO ₄ ²⁻)	0.2	0.00	0.00
炭酸水素イオン(HCO ₃ ⁻)	396.2	6.49	92.45
炭酸イオン(CO ₃ ²⁻)	1.1	0.04	0.57
陰イオン 計	415.1	7.02	100

(3) 非解離成分

成分名	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
メタケイ酸(H ₂ SiO ₃)	63.0	0.81
メタホウ酸(HBO ₂)	0.9	0.02
非解離成分 計	63.9	0.83

溶存物質(ガス性のものを除く) 641.1 mg/kg

(4) 溶存ガス成分

成分名	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
遊離二酸化炭素(CO ₂)	18.3	0.42
遊離硫化水素(H ₂ S)	0.0	0.00
溶存ガス成分 計	18.3	0.42

溶存成分総計 659.4 mg/kg

(5) その他の微量成分

成分名	ミリグラム (mg)
総水銀	0.0005 未満
総ヒ素	0.025
総クロム	0.01 未満
銅イオン	0.01 未満
カドミウムイオン	0.01 未満
鉛イオン	0.01 未満

6 泉質

単純温泉
(弱アルカリ性・低張性・低温泉)

7 禁忌症、適応症

温泉分析書別表に記載する

平成18年8月7日

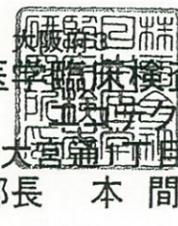
温泉成分登録分析機関

株式会社 日本医学臨床検査研究所

エコテクノ事業部

大阪府守口市大宮通1丁目13番36号

部長 本間 盛男



温泉分析書別表

- 1 源泉名 なにわ温泉（スーパーホテルCity大阪天然温泉）
- 2 源泉所在地 大阪市西区江戸堀3丁目111
- 3 温泉分析申請者 株式会社スーパーホテル 代表取締役 山村孝雄
- 4 泉質 単純温泉
- 5 療養泉分類の泉質に基づく禁忌症、適応症等は次の通りである。

浴用の禁忌症

一般的禁忌症

急性疾患（特に熱のある場合）、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中（とくに初期と末期）

浴用の適応症

療養泉の一般的適応症

神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、疲労回復、健康増進

浴用上の注意事項

- ア 温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を一日当たり一回程度とすること。その後は一日当たり二回ないし三回までとすること。
- イ 温泉療養のための必要期間は、おおむね二ないし三週間を適当とすること。
- ウ 温泉療養開始後おおむね三日ないし一週間前後に湯あたり（湯さわり又は浴湯反応）が現われることがある。「湯あたり」の間は、入浴回数を減じ又は入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。
- エ 以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。
 - （ア）入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分程度として、慣れるにしたがって延長してもよい。
 - （イ）入浴中は、運動浴の場合は別として一般には安静を守る。
 - （ウ）入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない（湯ただれを起しやすい人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分を拭き取るのがよい）。
 - （エ）入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。
 - （オ）次の疾患については、原則として高温浴（42℃以上）を禁忌とする。
 - イ、高度の動脈硬化症
 - ロ、高血圧症
 - ハ、心臓病
 - （カ）熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意をする。
 - （キ）食事の直前・直後の入浴は避けることが望ましい。
 - （ク）飲酒しての入浴は特に注意する。

飲用上の注意事項

- ア 飲泉療養に際しては、温泉について専門的知識を有する医師の指導を受けることが望ましいこと。
- イ 温泉飲用の一回の量は一般に100mlないし200ml程度とし、その一日の量はおおむね200mlないしは1000mlまでとすること。
- ウ 強塩泉、酸性泉、含アルミニウム泉及び含鉄泉はその泉質と濃度によって減量し、又は希釈して飲用すること。
- エ 以上のほか、飲用については次の諸点について注意すること。
 - （ア）一般には食前30分ないし1時間がよい。
 - （イ）含鉄泉、放射能泉及びヒ素又はヨウ素を含有する温泉は食後飲用する。含鉄泉飲用の直後には茶、コーヒーなどを飲まない。
 - （ウ）夕食後から就寝前の飲用はなるべく避けることが望ましい。

(注) この別表は、温泉法第14条による掲示に必要な参考資料となるものである。

平成18年8月7日

温泉成分登録分析機関

株式会社 日本医学臨床検査研究所

大阪府守口市大宮通1丁目13番36号

部長 本間 盛男

部長 本間 盛男